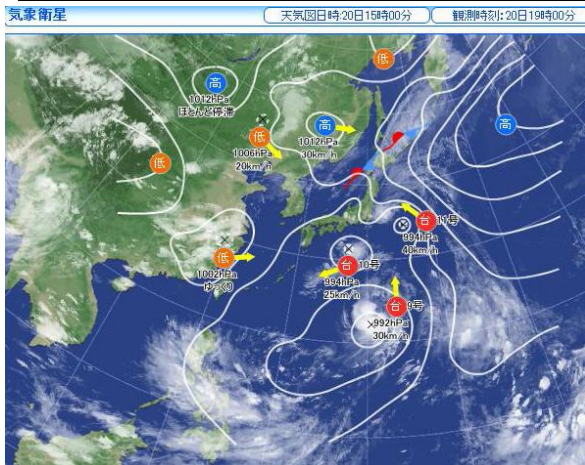


栃の木からの手紙

2016年 9月号



台風といえば日本の南方から沖縄へ入り九州辺りから上陸をするものだと思っていましたが、昨年ころから、太平洋上を勢力を維持しながら東日本に沿う様に北上する傾向が多くなっている。8月に北海道へ来た台風もそう。9日に台風5号。15日に台風6号。17日に台風7号。台風7号は置き土産に停滞前線を北海道に残して行った。そして日本の南方に出来ている台風の巣から発生して次々に日本へ向かう台風の卵たち。いったい何が起きているのだろうか？ ミロク弥勒台風。

9月 長月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

- 1日： 新月 :旧 8月 1日
- 7日： 白露
- 15日： 仲秋の名月 (陰暦8月15日の月)
- 17日： 満月 :旧 8月17日
- 22日： 秋分の日

8月 5日 夏休み子ども自然体験キャンプ の中の一つの行事として「芋掘り体験」「小麦収穫体験」を行いました。



8月4日から6日に報徳会館を利用して修養団による子どもキャンプ(町教育委員会の後援)が行われました。高橋農場として3回目の協力になる今年は、キャンプ地から1.5kmの距離にある高橋農場の一般の畑で16名の小中学生(小1が多い)を迎えて農業体験を提供させていただきました。(自然農法の畑は距離が遠い)



毎年恒例の修養団のキャンプ。会合が持たれる前の6月中旬には、こちらから教育委員会の担当に対して提案文書を提出して宜しければ協力させてもらう旨を伝えました。内容は、

- 1: 子どもたちが歩いて移動するのに無理の無い畑までの距離と場所の提示。
- 2: 芋掘り体験(当日の夕食の食材になる)。
- 3: 畑での遊びとしての小麦収穫跡の畑での「麦稈ロール転がし」。

実施までに「現地の確認」と数回の打ち合わせを重ねて実施になりましたが、「麦稈ロール転がし」については相手方も実施したいのですが、当日までに小麦の収穫が終了してロールが出来るのか？が問題となり、幾つかの場合分けを行いました。

雨天の場合 ⇒ キャンプ地の体育館で

- ・ お芋・食育の話 (担当：私)
- ・ 野菜カードを使ったゲーム (担当：修養団)

畑での場合 ⇒ 1：芋の収穫体験 (担当：私)

⇒ 2：麦稈ロール転がし (担当：修養団)

1：ロールが出来ている ⇒ 麦稈ロール転がし

2：ロールが無い

収穫まだ ⇒ 小麦収穫体験

収穫済み ⇒ 相手に小麦収穫跡での遊びを依頼

(ロール作成が間に合わなければ、小麦収穫を当日以降に遅らせる。)



当日は、暑い程の日。例年より5日程遅れて小麦の集団刈取り作業が始まっていました。畑で会場準備をしていると、うちの集団の黄色の大型コンバインが子どもたちが歩いて来る方へ走って行ったのが見えた。程無く子どもたちが到着。トラックに張り付けた資料を前にして「食べ物を大切にするお話」、そして芋掘り体験、小麦収穫体験。

小麦収穫体験は7月30日に大人を相手に行ったばかり。子ども相手は初めて。作業としては、麦干し竿ががらがらでしたが、感性の違いかな？遊び心が沢山。

小麦の穂を掌で擦って現れた小麦の実を見せてあげると「これ食べられるの？」。摘んで食べて「美味しいよ」というと、次々に広まって行き自分で麦を採って「美味しい」といって食べ始めた。大人たちも、昔を思い出した様で子どもたちとのコミュニケーションが深まっていました。そして、「この藁で何か作れる？」と聞く男の子に「わらじなど、色々作れるよ」というと、「作ってみたい。今度教えてね。」と創造力・想像力の膨らみを窺わせていました。